

科目名	看護薬理学Ⅰ (医薬品総論・感染症・悪性腫瘍・免疫・炎症反応・末梢神経系・中枢神経系に作用する薬物)					DP4 DP5		看護高等課程
	学年	1 年	分野	専門基礎 薬理	時間数	35 時間	担当 教員	
科目 概要	臨床看護の場において薬物治療に携わるためには、臨床薬理学の知識が必要である。薬物療法の目的や薬理作用などの概念、ならびに、安全な医薬品の使用や管理について学ぶ内容とする。 さらに、感染症・悪性腫瘍・免疫・炎症反応・末梢神経系・中枢神経系に作用する薬物についても知り、基礎的知識を深める。							
到達 目標	1. 薬物療法の目的や、薬物と生体との相互作用によって起こるさまざまな現象について理解することができる。 2. 医薬品の使用や管理に必要とされる法律・調剤等の知識を習得し、薬物療法の安全性と有効性について理解することができる。 3. 感染症・悪性腫瘍・免疫・炎症反応・末梢神経系・中枢神経系に作用する薬物について理解することができる。							
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員
1～3	薬に関する基礎知識 第1編 第1章			薬と身体、薬物の種類と名称、薬理作用 薬物体内動態、薬物の効果に影響を及ぼす因子 薬に関する法律、調剤と処方箋			講義	池内
4～5	医薬品の適正な使用に必要な基礎知識 第1編 第2章 安全な与薬に必要な知識 第2編 第1章			使用時に注意すべきこと、添付文書の読み方 看護職員が特に確認すべき情報、与薬時に注意すべき項目、適正な投与量の計算				兼重
6～8	神経系・筋に作用する薬物 第1編 第3章 脳神経疾患 第2編 第2章			神経系に関する基礎知識、筋弛緩薬、自律神経系作用薬、麻酔薬、鎮痛薬、精神・神経機能に作用する薬物、神経変性疾患などに用いられる薬物、片頭痛・慢性頭痛治療薬 パーキンソン病、認知症、てんかん、看護のポイント				池内
9～10	炎症・アレルギー・免疫に作用する薬物 第1編 第5章 膠原病・感染症 第2編 第4章			副腎皮質ホルモン・オータコイドと炎症反応、副腎皮質ステロイド薬、非ステロイド性抗炎症薬、抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬、免疫抑制薬、リウマチ治療薬、ワクチン 全身性エリテマトーデス、ヒト免疫不全ウイルス(HIV) 感染症、看護のポイント				兼重
11～12	抗感染症薬 第1編 第11章			抗感染症薬に関する基礎知識、抗菌薬、抗真菌薬 抗ウイルス薬、抗原虫薬・抗寄生虫薬				池内
13～14	抗悪性腫瘍薬 第1編 第13章 悪性腫瘍第2編 第11章			悪性腫瘍と薬物療法、化学療法薬、ホルモン療法薬、分子標的薬、免疫療法薬、看護のポイント				兼重
15	薬物に関連する医療事故 第3編 第1章			どんな事故が起こっているか、どんな原因で起こっているか、防ぐためにどうするか				池内
16	病院内で起こりやすい事故と防止策 第3編 第2章 外来・在宅で起こりやすい事故と防止策第3編 第3章			患者への薬剤使用時の事故、外来・在宅で起こりやすい事故、外来・在宅での事故防止策				兼重
17				総復習				兼重
18	試験			(1 時間)				試験
評価 基準	100 点満点とし、6 割以上を合格とする。また、授業時間数の 3 分の 2 以上の出席が必要となる。							
評価 方法	出席状況と講義への参加態度、筆記試験などで総合的に評価する。							
教科書	看護学入門 2 栄養 薬理 (副読本) Pocket Drugs 医学書院 必要時、資料等は配布する。							
履修上の 注意点								